

6年生

能楽の体験学習

1月17日(月)

この学習は、文化庁主催「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」の一環として行われました。「公益社団法人 能楽協会」より15名の能楽師にお見えいただき、狂言と能について体験を交えながら学ぶことができました。



初めに、能と狂言の歴史と上演演目について説明を聴きました。狂言については「柿山伏」が国語の教科書に載っています。

これから演じていただく能楽がますます楽しみになりました。



狂言の演目は「棒縛」です。

留守番をさせると、いつも酒を盗み飲みする召使い、太郎冠者と次郎冠者。困った主人は、出かける際にうまく二人をだまして、一人の腕を棒に縛りつけ、もう一人も後ろ手に縛ってしまいます。それでも二人は、縛られた身で蔵へ忍び込み、酒を持ち出し飲み始めてしまう・・・という話です。



迫力ある演技
を堪能していま
す。楽しい話に
みんな笑顔で見
入っていました。



続いては、狂言の一場面を体験。写真は泣いている場面を演じているところです。
子どもたちの表現も豊かになります。



後半は、能についての学習です。

能面や能装束、楽器等の説明を聞いて、一つ一つのものの大切さを学びました。伝統の重みを感じます。



そして、いよいよ上演です。能の演目は「羽衣」です。

三保の松原で、漁師が天人の羽衣を見つけます。返してほしいと願う天女に、漁師は舞を見せてくれるなら衣を返そうと答えます。衣を身にまとった天女は、富士山を背に、優雅で美しい舞を舞います。そして、地上に数々の宝を降らし天上界へと帰っていく・・・という話です。



能装束は、公演の時だけ身にまとうのだそうです。

演じる方の体格に合わせて、その都度調節するとのことでした。



最後は、能の舞と楽器についての体験です。写真は、歩き方と小鼓の打ち方を習っている場面です。

日本の伝統芸能の楽しさや奥深さを感じることができた貴重な体験となりました。